

伊賀・山城南定住自立圏共生ビジョン(中間案)パブリックコメントに寄せられた意見及び意見への対応

番号	提出自治体	ページ	項目	箇所	意見種別	ご意見等	担当部会等	ご意見への対応	本文修正
1	南山城村	1・2	基本的事項	3. 定住自立圏共生ビジョンの目的	意見	「中長期的な観点」と言いながら、ビジョンそのものは、5年限定のものとなっている。この5年間の取り組みで、中長期的な「人口定住のために必要な生活機能を確認し、自立のための経済基盤や地域の誇りを培い地域の活性化を図る」展望は見えてこない。			
2	南山城村	9	圏域の状況と将来像	(3)伊賀市への通勤・通学割合	意見	「(3)伊賀市への通勤・通学の状況」の項では、「多くの住民が通勤・通学しており」とあるが、通学はしていないのが事実。			
3	南山城村	11	圏域の状況と将来像	(5)産業について	意見	「(5)産業」の項の「南山城村では、第1次産業の割合が高くなっている」とあるが、表のどこからそういえるのかかわらない。 他市町と比べ高いのは事実だが、村でも第1次産業就業者は減り、第3次産業就業者が増えているのが現実。こじつけた論だては、正確な方針を作り出さない。			
4	南山城村	13	圏域の状況と将来像	5. 圏域の将来像	意見	「5. 圏域の将来像」の項の記載に賛同する。 「…圏域全体が周囲を山々に囲まれた自然に恵まれた地域」 「…恵まれた自然環境から産出される…」P5の南山城村は、「豊かな自然と里山の風景を残した元気な村」とし紹介されている。これらを将来像とすることには大賛成である。 しかし、一方では、自然破壊のメガソーラー建設計画や産業廃棄物の捨て場になったりごみの放置場になっているという現状もある。こうした自然破壊を許さず、豊かな自然を未来へつないでいく施策を推進することに共同して取り組むことを応援したい。			
5	南山城村	14	圏域の状況と将来像	6. 圏域人口の将来展望	意見	「圏域人口の将来展望」で、南山城村の人口が圏域他地域と比べても突出して増の数値となっている。P7にあるように「伊賀市、笠置町、南山城村のいずれの自治体においても減少し続けている。」国レベルの人口推計によっても人口は減少し続けるとある。ごく最近の報道でもしかりである。にもかかわらず、南山城村だけ人口増とあるが何ら根拠がないばかりかこの「将来展望」の設定そのものに大きな疑問を持たざるを得ない。「それぞれの自治体の人口ビジョンを踏まえる」としているが、この共生ビジョンの信憑性にかかわる問題であると考ええる。 これらの数値を根拠に組み立てられる設計は信頼に足るものとはいえない。			

番号	提出自治体	ページ	項目	箇所	意見種別	ご意見等	担当部会等	ご意見への対応	本文修正
6	南山城村	15	圏域の状況と将来像	7. 圏域の高齢化率の将来展望	意見	「7. 圏域の高齢化率の将来展望」の項で高齢化率を「下げる」となっているが、どうするのかわからない。医療の充実・平均寿命の更新等長寿化の中で、高齢化率を下げるというのは何をすることか。平均年齢を下げるために、高齢者以外の人口を大幅に増やすということか。たぶんそうではないだろう。では、…。ここでも、数の遊びや作り変えが行われているのではないか。必要なことは、高齢者が最後まで安心して暮らしていける社会保障を充実させることであって、高齢化率を下げることではないだろう。			
7	南山城村	21	医療	政策(1)医療	意見	「政策(1)医療」の項、冒頭の文章の「安心」と施策①の内容が全く違う。「救急医療体制維持のための支援と住民等への啓発」とあるが、啓発とは何か。「二次救急医療機関の負担軽減」は「啓発」＝「住民が利用を自主規制する」といふふうに読めてしまう。 今しなければならないことは、住民が安心して生活することができる医療体制を確立することであり、「啓発」によって「がまん」することではなく必要な時に適切に(治療にもっともよい体制で)使えることではないか。伊賀市の救急医療体制が名張市も入れた広域化で維持されていることは知っているが、行政としては、医師の確保や救急医療体制の充実のために全力を挙げることであり、住人に自主規制を求めることではないだろう。 また、市町村それぞれに地元の診療所・医院を開設し、日常的な医療健康維持体制を確立することで、二次救急医療機関の負担軽減につなげることが大事ではないか。地域から医師がいなくなるこの現実を変革することが特別に重要だと考える。そのための手立てを行うのが行政の責務だと考える。			
8	南山城村	22	医療	政策(1)医療	意見	山城医療センターとの関係が見えてこない。伊賀市との定住自立圏だからと言って、山城医療センターや地域の医院を抜きには考えられない。住民にとっては、どちらも健康・生命維持のためには必要な病院であるし、従来からの関係で負担金等金銭的な問題もある。 その点もきちんと説明すべきであると考え。			

番号	提出自治体	ページ	項目	箇所	意見種別	ご意見等	担当部会等	ご意見への対応	本文修正
9	南山城村	23～	健康・福祉	政策(2)健康・福祉	意見	「政策(2)健康・福祉」 広域でやっとなことときめ細かく住民が利用しやすい範囲での施策とがある。ビジョンからはきめ細やかな施策は見えてこない。(定住圏ビジョンとは関係ないと考えているのかしれないが)小さい子や高齢者・障害のある方たちにとっては、身近であることが必要ではないか。住み続けられるとは、そういうことではないのか。			
10	伊賀市	31	教育	1311高校の通学範囲の拡大要望	意見	島ヶ原中学の生徒は、上高以外の普通科の選択肢がない。上高には行けない普通科志望者は、遠方で通学定期代の高額な名張市内の高校に通学せざるを得ない。旧伊賀線の定期代は高すぎるし、名張市は遠いし、通学が大変である。改善案として、京都府立木津高校に通学できれば、定期代も安くなり通学時間も大幅に短縮できるので、ぜひ検討してください。島中生の「上高以外の普通科」の「選択肢」が必要です！！			
11	南山城村	31	教育	1311高校の通学範囲の拡大要望	意見	旧月ヶ瀬村(奈良市)や山添村の生徒は、伊賀市及び名張市内の全ての高校に入学できるのに、南山城村民は伊賀白鳳高校の一部学部しか入学できない。伊賀市民は山辺高校山添分校に通学できる越境入学協定を結んでいる。南山城村にとって、一番近い高校は上野高校であり、今までも多数の村民が越境入学しており、地元企業等に就職できている。一方関西線が加茂から電化されて、連絡も年々悪化して乗り継ぎに時間がかかり、木津高校以外の南陽高、田辺高、西城陽高、東宇治高、城南菱創高、菟道高などの山城通学圏高校への進学は、通学時間に相当時間がかかり、大変な状況となってきた。結果、若者夫婦は交通アクセスの良い木津川市に流出している。一番アクセスの良い、近い伊賀市の高校に通学できることになれば、選択校も増え、大変良いことだと思うので、実行してほしい。			
12	南山城村	31	教育	1311高校の通学範囲の拡大要望	意見	「政策(3)教育」でも、「圏域内での高校進学については、各自治体間での進学状況が多くあり、圏域内でのさらなる進学エリアの拡大」とあり、事実を捻じ曲げている。 期待される効果として「通学が可能になれば、就職に繋がり、就職による人口減少を防ぐ」としているが何ら根拠がない。伊賀市では、若者の圏外転出が少ないのか。そうではないのではないか。事実を示して論じてほしい。 そして、教育を就職のためだけに特化した論はやめてほしい。			

番号	提出自治体	ページ	項目	箇所	意見種別	ご意見等	担当部会等	ご意見への対応	本文修正
13	南山城村	全体	—	—	意見	数字の恣意的な利用や用語で曖昧にするなど、現実をしっかり分析し、事実に基づいた方針を提示するという基本的なビジョンづくりになっていない部分がたくさん見られ残念だ。また、必要事業費については、一切記入されていない。これも非常に不誠実な提案だと考える。 中間ビジョンだということだからさらに検討され、住民にとって有用な取り組みが作られるよう期待する。			